

周りに模様をつけた方がいいね



グループで作品作りをしました。このカオがどんなことをしゃべっているのか考えながら、吹き出しもつけました。

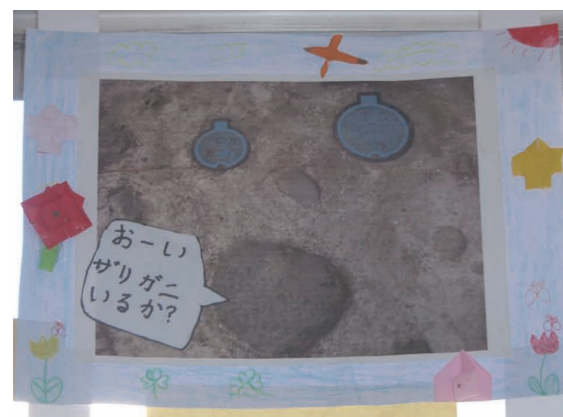
天井にもカオ発見!!



校内に隠れているカオを探しに行きました。壁、窓、木、遊具などに近づいたり離れたり、角度を変えたりして、目、鼻、口を見つけ出しました。



まちの中に出てみました。道路の脇に、向こうの住宅地に。カオはまちのいろいろなところで見つけれそうです。



きれいにレイアウトをして、作品の完成です。『おーい ザリガニいるか?』



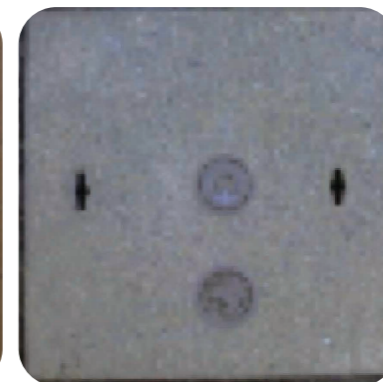
「おもしろカオ No.1」を投票で決めました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行った取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

ひそんでいるぞ! カオ・かお・顔

No. 01

身の回りを観察し、まちに隠れている「顔」を発見する(窓の並び方など)。



対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校3・4年生

【関連する教科】

- 図画工作
- 社会

ひそんでいるぞ! カオ・かお・顔

1. 学習のねらい

- 小学校中学年の児童の実態を考慮して、身近な景観を構成する要素の多様性に気づき、その特性を感覚的に把握するとともに、その直接的な要因を意識するようにする。

2. 学習活動

- 出会う** ● 無意識のまま眺めていた景観の中にさまざまな表情があることを知る（素材との出会い）。
- さがす** ● 担当する地域にある建造物の中から人や動物などのカオに見える部分を見つける（写真に撮る）。
- 気づく** ● 見方を変えることによって、見慣れたモノがおもしろく見えることに気づく（小学校中学年の「景観まちづくり学習」は“気づく”ことから）。

3. 準備するもの

【用 具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム（各グループに1台）
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 写真を貼るための台紙
- 地域の白地図
- バインダー、筆記用具

【場 所】

- 教室、学校内、学区域など

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

	学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【1時間】	見慣れた景色に意外なおもしろさがあることに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ● 班ごとに顔探しをする場所と順序を考える。 ● カメラの扱い方や撮影の手順を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校内で撮った“カオ”の写真を提示する。 ● 撮影の手順とカメラを扱うときの注意点を指導する。 	活動の意欲（観察）
STEP 2 【2時間】	他の友だちと協力しながら顔を探す	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域班ごとに5～6人のグループに分かれ、地図とカメラを持って“カオ”を探しに行く。 ● 見つけた“カオ”の写真を撮る。場所と本体を地図に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域班地図の準備。 ● 地域班ごとのグループ分けの指示。 ● 注意事項の確認。 ● 各班に1人大人が付き添えるように手配。 	課題追求能力（観察） コミュニケーション能力（観察）
STEP 3 【1時間】	見つけた顔の写真を自分なりにプレゼンテーションする	<ul style="list-style-type: none"> ● 撮影した写真をもとにワークシートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 撮影した写真を美しく見せられるように、ワークシートの形式をデザインできるようにする。 	表現力（作品）
STEP 4 【2時間】	自分や友だちの発見のよさに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ● 見つけた顔の写真をもとにつくったワークシートを見せながら発表する。 ● おもしろ顔No.1を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表場所の設定。 ● 子どもたちのがんばったところ、視点のおもしろさを見つけ、言葉がけで評価する。 	表現力（発表・観察） 自己評価力（発表・観察）

5. 留意点

- 撮った写真は、掲示物としても十分楽しめるように台紙のレイアウト等デザインできるようにする。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。
- 大きな単元の導入部分として実施するのに適しており、他のプログラムと組み合わせることが望ましい。

6. 発展へのヒント

- 「No.02：これはどこだ？探してみようまちパーツ」、あるいは「No.03：よくよく見れば、あの場所に」を行う。
- オリエンテーリング形式で、まちのおもしろいものを探す。



まちに「おもしろいモノ」を探しに行きました。今まで気づかなかったモノをたくさん見つけることができました。



先生のつくったクイズの答えを探して、学校内を回りました。



自分で撮ってきた写真を、デザインしました。



下級生にクイズを出題しました。みんな楽しんでくれて自分たちの発見もしっかり伝えられました。



みんなで作ったクイズを出しあって、どこの写真なのか探しに行きました。見つかるかな？



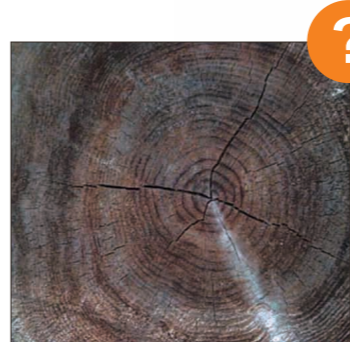
ここでは、モデルプログラムをもとに行った取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

これはどこだ？ 探してみよう まちパーツ

No. 02

身の回りにあるものの写真を撮り、クイズ形式で
出題し合う(屋根、壁、塀、看板、室外機など)。

クイズ! これはどこでしょう?



対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校3・4年生

【関連する教科】

- 図画工作
- 社会

これはどこだ? 探してみようまちパーツ

1. 学習のねらい

- 小学校中学年の児童の実態を考慮して、身近な景観を構成する要素の多様性に気づき、その特性を感覚的に把握するとともに、その直接的な要因を意識するようにする。
- まず、見ることから観ることへとつなげるために、普段見慣れた景観に、遊びの要素を取り入れた活動を展開し、まちを構成する素材のよさやおもしろさに関心を持たせる。

2. 学習活動

- 出会う** ● 無意識のまま眺めていた景観の中にさまざまな表情があることを知る（素材との出会い）。
- つくる** ● 担当する地域にあるおもしろいと感じたモノの写真を撮り、問題をつくる。
- さがす** ● 他の班が写したモノの場所とそのモノ自体をさがす。
- 気づく** ● さまざまな素材に囲まれて生活していることに気づく（小学校中学年の「景観まちづくり学習」は「気づく」ことから）。

写真の例「これはどこでしょう?」



3. 準備するもの

【用具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム（各グループに1台）
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 写真を貼るための台紙
- 地域の白地図
- バインダー、筆記用具

【場所】

- 教室、学校内、学区域など

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【1時間】 見慣れた景色に意外なおもしろさがあることに気づく	● 写真を見ながらどこか考える。 ● カメラの扱い方や撮影の手順を知る。	● 学校内で撮った“部分”の写真を提示し、クイズをする。 ● 撮影の手順とカメラを扱うときの注意点を指導する。	活動の意欲（観察）
STEP 2 【2時間】 他の友だちと協力しながら探す	● 地域班ごとに5～6人のグループに分かれ、地図とカメラを持っておもしろそうなモノを探しに行く。 ● 見つけたモノの写真を撮る。場所と本体を地図に記録する。	● 地域班地図の準備。 ● 地域班ごとのグループ分けの指示。 ● 注意事項の確認。 ● 各班に1人大人が付き添えるように手配。	課題追求能力（観察） コミュニケーション能力（観察）
STEP 3 【1時間】 見つけた所の写真を自分なりにプレゼンテーションする	● 撮影した写真をもとにワークシートを作成する。	● 撮影した写真を美しく見せられるようにワークシートの形式をデザインできるようにする。	表現力（作品）
STEP 4 【2時間】 自分や友だちの発見のよさに気づく	● 他のグループが作成したワークシートと地図を持って、その写真がどこかの何の写真かを調査しに行く。 ● 調査結果を発表する。	● 発表場所の設定。 ● 子どもたちのがんばったところ、視点のおもしろさを見つけ、言葉がけで評価する。	表現力（発表・観察） 自己評価力（発表・観察）

5. 留意点

- 素材の写真は、掲示物としても十分楽しめるように台紙のレイアウト等デザインできるようにする。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。
- 大きな単元の導入部分として実施するのに適しており、他のプログラムと組み合わせることが望ましい。

6. 発展へのヒント

- 「No.03:よくよく見れば、あの場所に」、あるいは「No.04:まちの色・いろいろ」を行う。
- オリエンテーリング形式で、まちのおもしろいモノを探す。
- 時間や季節による素材の色や雰囲気の変化に着目する。



グループに分かれてクイズづくりをしました。どんなヒントを書いたら、おもしろいクイズになるかな?



こんなモノがあるなんて知らなかった!!

学校の中で、まちの中で、いろいろおもしろいモノを撮りました。縦にしたり横にしたり、上から見たり下から見たり、まちを構成する素材のおもしろさをポイントに探しました。

クイズの答え発見! ここだ!!



クイズの答えを探しに行きました。みんなで考えを出しあって、答えを見つけました。

なんだか見たことある気がする。でも、どこだっけ?



「一部分だけ写したのがいい」「いろいろなモノが組み合わせられて不思議」など、おもしろさに気づいていました。



つくったクイズの発表会をしました。探すときの視点や見つけたときの感動、作品に対する思いを、作成者から直接聞いて体験の共有を図ることができました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行った取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

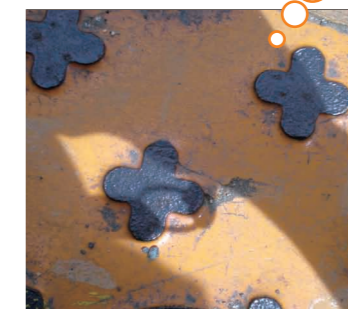
よくよく見れば、あの場所に

No. 03

身の周りの建造物や樹木などの表面をクローズアップの写真に撮り、クイズ形式で出題し合い、素材の持つ表情に気づく。



カエルの目



お花もよう



UFO

対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校3・4年生

【関連する教科】

- 図画工作
- 社会

よくよく見れば、あの場所に

1. 学習のねらい

- 身近な景観を構成する要素の多様性に気づき、その特性を感覚的に把握し、その直接的な要因を意識する。
- 普段見慣れた景観を俯瞰するのではなく、まちを構成する素材のよさやおもしろさに関心を持つ。
- まちを構成する素材（壁・塀）等の材料の質感に気づく。

2. 学習活動

- 出会う** ●無意識のまま眺めていた景観の中にさまざまな表情があることを知る（素材との出会い）。
- つくる** ●担当する地域にある素材のクローズアップ写真を撮り、問題をつくる。
- さがす** ●他の班が写した部分の場所とそのモノ自体をさがす。
- 気づく** ●さまざまな素材・材料に囲まれて生活していることに気づく（小学校中学年の「景観まちづくり学習」は“気づく”ことから）。

写真の例
「どこにある?どの部分でしょう?」



3. 準備するもの

【用具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム（各グループに1台）
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 写真を貼るための台紙
- 地域の白地図
- バインダー、筆記用具

【場所】

- 教室、学校内、学区域など

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

	学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【1時間】	素材の持つ表情のおもしろさに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ●素材の写真から、様々な表情を知る。壁、木の幹など建物や自然物の表面の写真から学校のどの部分か探す。 ●カメラの扱い方や撮影の手順を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校内で撮った“部分”の写真を提示し、クイズをする。 ●撮影の手順とカメラを扱うときの注意点を指導する。 	活動の意欲（観察）
STEP 2 【2時間】	他の友だちと協力しながら探す	<ul style="list-style-type: none"> ●地域班ごとに5～6人のグループに分かれ、地図とカメラを持っておもしろそうな表面を探しに行く。 ●見つけた表面の写真を撮る。場所と本体を地図に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域班地図の準備。 ●地域班ごとのグループ分けの指示。 ●注意事項の確認。 ●各班に1人大人が付き添えるように手配。 ●見つけた表面のクローズアップと全体像の2枚の写真を撮らせる。 	課題追求能力（観察） コミュニケーション能力（観察）
STEP 3 【1時間】	見つけた所の写真を自分なりにプレゼンテーションする	<ul style="list-style-type: none"> ●撮影した写真をもとにワークシートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●撮影した写真を美しく見せられるようにワークシートの形式をデザインできるようにする。 	表現力（作品）
STEP 4 【2時間】	自分や友だちの発見のよさに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ●他のグループが作成したワークシートと地図を持って、その写真がどの何の写真かを調査しに行く。 ●調査結果を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●発表場所の設定。 ●子どもたちのがんばったところ、視点のおもしろさを見つけ、言葉がけで評価する。 	表現力（発表・観察） 自己評価力（発表・観察）

5. 留意点

- 素材の写真は、掲示物としても十分楽しめるように台紙のレイアウト等デザインできるようにする。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。
- 大きな単元の導入部分として実施するのに適しており、他のプログラムと組み合わせることが望ましい。

6. 発展へのヒント

- まだ実施していない場合は「No.02：これはどこだ?探してみようまちパーツ」を行う。
- 「No.04：まちの色・いろいろ」を行う。
- オリエンテーリング形式で、まちのおもしろいモノを探す。
- 色と素材のパターンを言葉で表現するとともに、それを活かした教室のインテリアを考える。



地域に色を探しに行きました。グループごとに担当の色を決めて、その色を見つけたら写真に撮ります。

あっ!
あそこにあるよ!!



赤はまちの中に
これだけありました!



撮ってきた写真を、みんなで発表しました。色によってたくさん見つかったものと、あまりなかったものがあることに気づきました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行った取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

まちの色・いろいろ

No. 04

まちにあるいろいろな色を集め、色ごとに分類し、まちの中のどこにどのような色が使われているかや、色の役割などについて考える。



対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校3・4年生

【関連する教科】

- 図画工作
- 社会

まちの色・いろいろ

1. 学習のねらい

- まちの中に存在する色は、単なる装飾的な役割を持つだけでなく、様々な意味的記号として機能し、まちの景観を形づくっている。そうした生活の中にある色に注目し、まちの景観を構成する色の役割について考える。
- 小学校中学年を想定しているが、2年生の生活で取り組むことも可能である。

2. 学習活動

- グループなどに分かれて、特定の色を調べることによって、まちではどのような色が使われているのか。そこから、その色が使われているのがどのような意味なのかに気づくようにする。そうした活動を通して、まちを構成する細部にも目を向けることが重要である。
- 例えば、赤色は人々の注意をもっともひきつける色であり、人々に警告を発する意味を持っている。看板などに使用される場合、赤色はよく目立つ色であり宣伝効果を発揮する。黄色は、赤色の次に人々の注意を喚起する色である。また、まちの中では黄色は、赤色と組み合わせて使用されている例もよく見られる。他には、木々の緑、オレンジ色の夕日の空、空の青さなど、広い視野を持ってまちのさまざまな色を写し撮って欲しい。

3. 準備するもの

【用具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム(各グループに1台)
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 写真を貼るための台紙
- 展示用のパーテーション等

【場所】

- 教室、学区域など

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

	学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【2時間】	まちに様々な色があることや、効果や意味があることに興味を持つ	●グループを作り、まちのどのようなところに自分たちのテーマの色があるか予想を立てる。	●撮影するポイント、注意点を説明する。	興味・関心 活動の意欲 (発言・観察)
STEP 2 【2時間】	自分たちのテーマの写真を撮る	●グループで写真を撮りに行く。	●活動の注意事項を説明する。 ●事前に保護者に付き添いを依頼し、各グループに1人大人が付き添えるように手配する。	表現力 (撮った写真)
STEP 3 【2時間】	自分たちのテーマとまちの色について気づいた事を発表する	●特徴やイメージを言葉にしてまとめる。 ●色の持つ意味や効果を考える。 ●クラスで色のグループごとに発表する。	●現像した写真(インスタントカメラ、デジタルカメラなど使いやすい)をグループに渡す。 ●発表するための場の設定。	表現力(発表) コミュニケーション能力 (発表)

5. 留意点

- 最終的なねらいは、全体の景観にとって色がどのような役割を持つのかに気づくようにすること。そのためには、建物や標識、看板などの細部を観察するだけでなく、まわりの木々や空の色などの自然物にも目を向け、景色全体にも視野が広がるようにし、まち全体の調和のあり方に気づかせること。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。
- 大きな単元の導入部分として実施するのに適しており、他のプログラムと組み合わせることが望ましい。

6. 発展へのヒント

- 「No.05:地域カルタをつくろう」を行う。
- 時間や季節による景観(見え方)の変化について意識を向け、異なる見え方を収集する。
- 朝、昼、夕方のまちを観察して、その違いや特徴を表現する。
- 色と素材のパターンを言葉で表現するとともに、それを活かした教室のインテリアを考える。



まちにカルタの素材探しに行きました。対象物に近づいたり離れたったり、上から見たり下から見たりしながら、写真を撮りました。

この写真にしよう♪



パソコンも使って絵札をつくりました。



情報コーナーやパンフレットを活用して、題材になりそうなものを調査しました。

あっ!!!
見つけた!!!



学級対抗カルタ取り大会を開催しました。真剣勝負です。



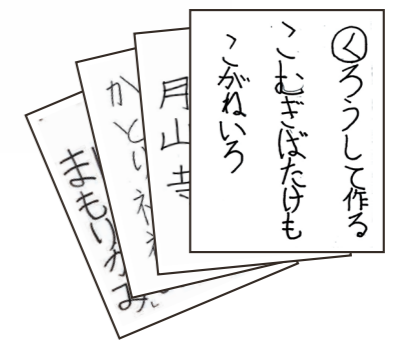
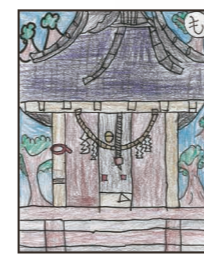
自分たちのつくったカルタをみんなに発表しました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行なった取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

地域カルタをつくらう

No. 05

まち歩きをして素材を探し、絵と文章で表現し、まちのカルタをつくる。



対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校3・4年生

【関連する教科】

- 図画工作
- 国語
- 社会

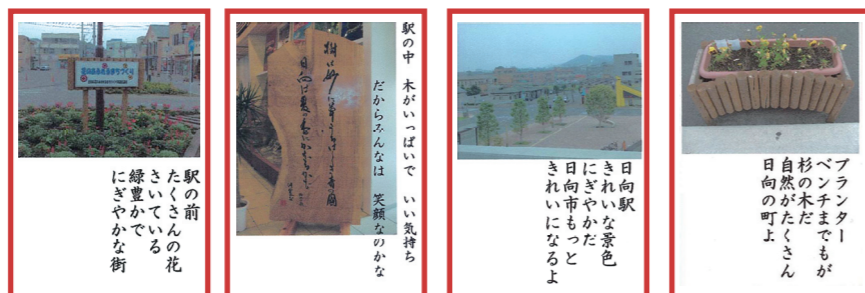
地域カルタをつくろう

1. 学習のねらい

- 自分の暮らす身近な地域の自然・景観のよいところを形づくっている要素にはいろいろなものがあることに気づく。
- 写真や絵、文章などで表現する力を高める。

2. 学習活動

- 絵札・読み札の構想づくりを行う。
- カルタの題材を探しに地域を探検する(デッサンに出かける)。
- 絵札・読み札を作成する。



3. 準備するもの

【用具】

- 見本となるようなカルタ
- 構想シート
- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 地域探索用の地図(自作)

【場所】

- 教室、学区域など

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【2時間】 地域に関心を持ち、活動を楽しもうとする	<ul style="list-style-type: none"> ●カルタの担当文字を決める。 ●各自、読み札の素案を考え、メモする。 ●どんな絵が描けるかイメージし、キーワードをメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一般的なカルタの紹介を行う。 ●ここで考えたいカルタの例を示す。 ●構想用のワークシートをあらかじめ作っておき、そこに記入させる。 	活動の意欲(観察) 課題設定能力(観察・メモ)
STEP 2 【2時間】 関心を深め内容についての情報収集や取材を通して、身近なよさを発見する	<ul style="list-style-type: none"> ●前回考えた読み札素案とキーワードメモを手がかりに、絵札に描けそうな素材を探す。 ●ここという場所が見つかったら地図にマークする。候補としていくつあってもよい。 ●記録のため、デジタルカメラでその場所を撮影し、地図の番号と合わせておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●素材探しの目的つけどころを事前に説明しておく。 ●事前に児童の目印になるものを書き入れた探検用地図を用意する。 ●デジタルカメラを準備する。 ●途中で、地図で位置の確認をする。 ●写真は、注目したものそのものとともに、場所全体が分かるものも撮るように話す。 	課題設定能力(観察・メモ) 課題追求能力(観察)
STEP 3 【2時間】 自分の発見のよさを、自分なりに表現力を働かせる	<ul style="list-style-type: none"> ●前回の地図と写真をもとに絵札を作成する。 ●読み札を作成する。初回に考えた素案が使えれば清書のみとするが、絵札との関わりから再検討し、変更してもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●そのものを描くということでも、この場をこうしたいといった思いを含んだ未来のまちの絵を描いてもよい。 ●言葉が出てこない場合のヒントを与える。 	表現力(作品)

5. 留意点

- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。

6. 発展へのヒント

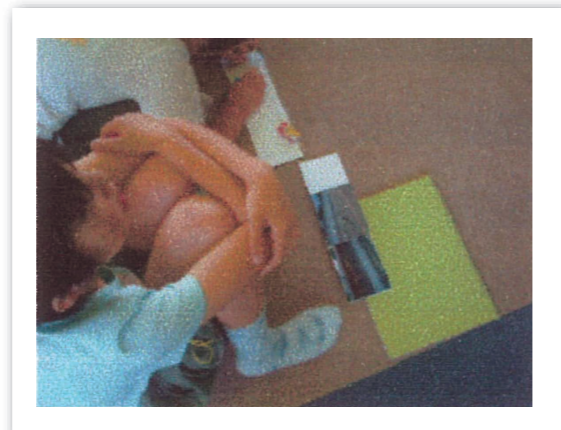
- 「No.06：塀もまちの景観の一部」、あるいは「No.07：看板からまちの風景を考える」を行う。
- まちの中で好きな場所を見つけ出し、自分だけの名前をつけて、お互いに発表する。
- 絵手紙と短歌で自分のまちを紹介する。
- まちの絵はがきをつくって、他のまちに住んでいる親戚などに送る。



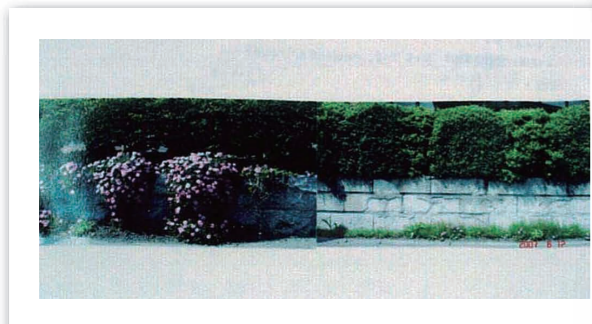
グループごとにまちを探索して、自分の気に入った塀を調べました。



かわらでできた塀、花崗岩でできた塀、生垣など、いろいろな塀を写真に撮りました。



塀の種類や色、素材に注目しながら、気に入った塀の組み合わせを考えました。



撮ってきた写真を組み合わせて、作品を作りました。



自分がつくった塀の作品の発表会をしました。みんなでの作品がよかったか、意見を出し合いました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行った取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

塀もまちの景観の一部

No. 06

まち歩きをして、塀の写真を撮り、その好きな組み合わせを考える(ブロック壁、生け垣、植木鉢など)。



対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校3・4年生

【関連する教科】

- 図画工作
- 社会

塀もまちの景観の一部

1. 学習のねらい

- まちを構成する要素のひとつである塀は、その種類や色により人に与える印象が変わることに気づく。
- まち全体ではなく、塀一つが変わるだけでも、まちの景観が変化することに気づき、まちの景観が良くなるにはどうすればいいのかについて考え、発表できる。

2. 学習活動

- 本題材は、まちの景観の良さを「統一感」や「調和」という観点から考えていくものである。
- 小学生の低い目線でまちを見ると、子どもたちがなげなく目にしているまちには、塀がたくさんあることに気づく。塀は、色や素材、大きさの違いによって、人に与える印象が変わる。またその連なりかたによって、まちに「統一感」や「バラバラ感」を与える。つまり塀の連なりかたによって、まちの景観が「良くなる」ことも「悪くなる」こともある。
- 授業は、まちには塀がたくさんあることに気づくことから始まる。塀に注目をしてまち探検をし、塀には様々なものがあることを発見していく。
- 学校に戻り、それぞれの塀が与える印象について考える。同時に、その塀の印象がまちの印象にも影響していることに気づかせたい。どのような塀が連なることで、まちの印象、つまりまちの景観が良いものになるのかを塀の写真を使った実験的な作業を行いながら考えていく。

3. 準備するもの

【用 具】

- 子どもの目線でまちを撮影したビデオ(3～5分程度)
- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム(各グループに1台)
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- A3サイズに拡大した塀の写真(児童が撮った写真から種類の違うもの数点)
- まち探検の地図

【場 所】

- 教室、学校周辺など

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

	学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【1時間】	まちの中に塀がたくさんあることに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ●まちを、子どもの目線で撮ったビデオ映像をみる。 ●そこに映っていたものを挙げる。例) 道路、電柱、公園の入り口、塀 ●まちの中には、塀がたくさんあることに気づく。 ●次時のまち探検の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前にビデオを撮って準備しておく。 ●ビデオに映っていたものが、まちを構成する要素の一部であることに気づかせる。 	関心・意欲・興味(観察)
STEP 2 【2時間】	学校周辺を探索し、写真を撮る	<ul style="list-style-type: none"> ●6人ぐらいのグループを作り、グループごとにまち探索する場所を決める。 ●実際に学校の周り(学区)を歩き、目に映る塀をデジタルカメラを使用し、写真に撮る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの安全に十分注意する。 ●各グループに大人が1人入れるように、保護者等に協力してもらう。 ●撮影した写真の場所を地図に記させておくことよい。 ●1つの塀に対し、①画面いっぱいに塀を撮ったもの、②その塀が入っているまちの風景を撮ったものの2パターンの写真を撮らせる。 	課題追究能力(観察) 表現力(写真)
STEP 3 【2時間】	自分の好きな塀をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●前時に撮った写真を見て、塀には様々な種類、色、形、素材があることに気づく。 ●塀が連なることで、まちの印象(景観)をつくっていることに気づく。 ●自由に塀を並べて、自分が一番良いと思った組み合わせをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが撮った塀の写真をA3サイズに拡大しておく。 ●塀の拡大写真を、ランダムに黒板上で並べ、連なっている感じにする。 ●塀が連なることでまちの印象(景観)をつくっていることに気づかせたいときにはその塀が入っているまちの風景の写真、塀を並べて作品をつくるときには画面いっぱいに塀を撮った写真を使用するとよい。 	表現力(作品)
STEP 4 【1時間】	塀の効果や景観について気づき発表する	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が作った塀の作品について発表する。 ●みんなでの作品がよかったか意見を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●どうしてその組み合わせにしたのか、理由を発表できるようにする。 ●塀の連なりがみせる「統一感」や「調和」が景観を良くすることに気づかせたい。 	表現力(発表) 自己評価力(発表・観察)

5. 留意点

- 写真を並べて組み合わせることを考えながら写真を撮らないと、連なっている感じが出ないことを事前に児童に説明する。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。

6. 発展へのヒント

- 「No.07：看板からまちの風景を考える」、あるいは「No.08：わたしたちのまちに言葉の贈りもの」を行う。
- まちのいろいろな場所で、なぜそのような塀(境界の区切り方)が選ばれたのか、その理由を考える。
- 屋根など連なっていることでまちの景観をつくっているものを探し、その印象を考える。
- まちの中で自分の好きな場所を見つけ、自分だけの名前をつける。場所と名前を互いに発表する。



まちでは、今まで気づかなかった看板を見つけたり、お店の方に話を聞いたりしました。



お店に注目しながら歩いて、メモしてきたことを地図にまとめました。



すてきな看板
できたね!!



学校の看板づくりをしました。調査してわかった工夫しているところを参考に作成しました。



看板コンクールを開催しました。工夫したところやセールスポイントを織り交ぜながら発表しました。



ここでは、モデルプログラムをもとに行った取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

看板から まちの風景を 考える

No. 07

まちにある看板を写真に撮り、特に良いと思う看板ベスト3を選び、その良さの理由を考える。まちの看板も参考にし、学校の看板を考える。



対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校5・6年生

【関連する教科】

- 社会
- 図画工作

看板からまちの風景を考える

1. 学習のねらい

- まちの看板は、店の特徴を表すものであるが、同時にまちの風景をつくり、そのまちらしさを表しているものである。まちを構成するひとつの要素である看板を題材に、小さな要素が積み重なって、まちに特徴が生まれていることに気づく。
- 看板を通して、色や形、素材などの工夫を学び、自分たちのアイデアを表現することができるようにする。

2. 学習活動

- まちの景観のひとつの要素として看板を意識づける。看板そのものの色や形、素材、店構えとの調和、周囲との調和など、看板ひとつにも工夫が詰まっていることを知る。
- 自分たちのまちで特によいと思う看板を選び、その選考理由を考えることで、自分たちは、自分たちのまちの特徴をどうとらえ、どうあって欲しいと考えているのかを知る。
- 学校の看板づくりを通して、自分たちのまちに対する思いを表現し、発信する。



まちの看板には、おもしろい字体で描かれたものや、周辺との調和に配慮したものなど、様々な工夫が凝らされていくことにも気づきたい。

3. 準備するもの

【用 具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム(各グループに1台)
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- いろいろな看板を写した写真集など

【場 所】

- 教室、学区域など

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【1時間】 まちの看板こと始め	●まちの看板の意味について説明。	●まちにある看板は、まちの景観をつくり、まちの特徴を表すものになっていることを説明。 *クイズ形式で導入 Q:「お店には必ずいます」「まちを歩いている人の目にとまるとうれいのです」 A:「看板」 ●世界の看板、いろいろな看板を見る。(良い看板、不釣り合いな看板などとりまぜ、評価は加えず見せる)	活動の意欲(観察)
2 【2時間】 まちの看板を集めよう	●まちにある看板を探し撮影してくる。	●撮影時には、看板だけでなく、店構え、周りとの調和も撮影するように話す。 ●グループで活動。	課題追求能力(観察・作品)
STEP 3 【1時間】 ベスト看板賞決定	●撮影した看板の中で、特に良いと思う看板のベスト3を投票で決める。	●投票の際、選考理由を書き添えるようにし、投票後、人気のあった看板の要素について、みんなの考えをまとめてみる。	表現力(作品) 評価能力(発言・観察)
STEP 4 【2時間】 学校の看板をつくろう	●今まで学習した看板についての知識、考察をもとに、まちの中の学校としてふさわしい看板を考えてみる。	●周囲との調和を意識させる。 ●グループで活動する。 ●色や形、素材、サイズなど工夫するように指導する。	表現力(作品) コミュニケーション能力(観察)

5. 留意点

- 児童の関係する店の看板が話題になることもあるため、主に看板の良い点に着目した授業展開をする。
- 自分たちが、小さな要素を工夫することによって、まちがよくなっていくことに気づくようにする。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。

6. 発展へのヒント

- 未実施であれば「No.06：堀もまちの景観の一部」を行う。あるいは「No.8：わたしたちのまちに言葉の贈りもの」を行う。
- 看板にとどまらず、まちにあるサインを写真に撮りよいものを選び理由を考える。
- まちの絵はがきをつくって、他のまちに住んでいる親戚などに送る。
- まちの素敵な場所や、自分の好きな看板等がある場所などを紹介するツアーマップをつくる。



活動するなかで、地域の方とも交流できました。



何人かな?!

商店街や街並みを、自分たちのまちを表現するのにぴったりのものを探しながら歩きました。



緑がきれいで...



できた写真をギャラリーに展示しました。学校中のみんなに見てもらうことができました。



「自分の住みたいまち」を発表しました。同じチームでもいろいろな写真が撮れることに気づきました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行った取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

わたしたちの まちに言葉の 贈りもの

No. 08

まちの写真を撮り、言葉を添えて自分たちのまちを表現する。それを紹介する展覧会を行う。



むらさきのあじさいが満開にさいいて、ところどころにうすむらさきや白いあじさいがさいっていて、とてもきれいだと思ったのでシャッターをおしました。



この写真は、毎日おじさんがそうじしているみぞです。この写真をとった理由は、いつもこんなきれいなまちになってほしいと思ったからです。細いところでもそうじをすれば、環境が良くなると思います。

対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ● 小学校5・6年生

【関連する教科】

- 社会
- 国語
- 図画工作

わたしたちのまちに言葉の贈りもの

1. 学習のねらい

- 撮った写真をグループやクラスで並べて、自分たちのまちを表現することで、自分たちのまちに対する考えや愛着などを発信すること、またその表現方法を学ぶ活動である。
- 自分たちのまちを写真に収める学習を通して、まちのよさや人々の交流、残されている自然の美しさなどを再発見し、まちの景観はそうした人々の生活が一体となって構成されていることに気づいてほしい。

2. 学習活動

- 総合的な学習の時間では、学習の記録の補助として写真を使用する機会も多いと思われるが、ここでは学習の記録や補助的機能として写真を使用するのではなく、写真を撮る活動そのものを学習題材とする。例えば、まちのよさを表現するために写真全体の構図を考えるなど、広い視野を持ち学習を展開する。なお、写真の技術だけでなく、シャッターを押す子どもたちの感性も当然、大事にしたい。
- 気に入った写真に、気づいたことや感じたことを効果的に表現した文章を添える。
- 写真を撮りにフィールドワークにでかけ地域の様子を知る。また、撮った写真は台紙に貼ったり、額に入れたりした後、会場を用意し、写真展を開く。そこでは企画・運営のスキルや表現力、コミュニケーション力が必要となる。

3. 準備するもの

【用具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 写真を貼るための台紙
- 展示用のパーテーション等

【場所】

- 地域、教室、展示場となる広いスペース

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

	学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【2時間】	どんな写真を撮りたいか自分たちの課題を設定する	<ul style="list-style-type: none"> ●まちの写真を見て、まちのよさや特徴についてクラスで意見を出し合う。 ●グループを作り、どんな写真を撮りたいかテーマを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真を撮りに行くときのポイントや注意点を説明する。 	活動の関心・意欲(観察) 課題設定能力(観察)
STEP 2 【2時間】	自分たちの決めたテーマの写真撮る	<ul style="list-style-type: none"> ●グループでまちの写真を撮りに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前に保護者に付き添いをお願いし、各グループに大人をつける。 ●活動の注意事項を説明する。 *「グループで協力して住みたいまちを撮ってきてね!」 	課題追求(観察) 表現力(写真)
STEP 3 【2時間】	自分たちのテーマを表現する	<ul style="list-style-type: none"> ●グループに分かれて、住みたいまちをイメージする。 ●どの写真を使い、どのように並べるか話し合う。 ●気に入った写真に気づいたことや感じたことを、言葉にして添える。 ●住みたいまちのポイントを説明し、発表する。 ●クラスみんなで展示会を企画する。 ●案内状を作成して学校や地域の人に知らせる。 ●展示会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現像した写真をグループに渡す(デジタルカメラ、インスタントカメラなども使いやすい)。 ●展示会に使用する写真を拡大する。 *「学校のみんなや地域の人にも見てもらおうか!」 ●会場やボードを用意する。 	コミュニケーション能力(発表) 表現力(発表・観察)

5. 留意点

- 建物や人物だけに視点が限定しないように、視野を広く持って構図を考えるようにする。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。

6. 発展へのヒント

- 「No.09: 思い出いっぱいわたしたちのまち」、あるいは「No.10: 校歌の風景を見つめてみよう」を行う。
- 額縁を使ってまちのお薦めの風景を切り取り、紹介する。
- まちの素敵な場所やお得な情報などを紹介するマップをつくる。
- 自分の好きな場所やテーマを紹介するツアーマップをつくる。



登下校の道で、思い出に残るところを撮影しました。



自分たちが6年間通った道で、思い出に残ること、好きだった場所を話し合いました。身近な場所なので、たくさんの意見が出てきました。



みちの場所を、地図で探しました。



撮ってきた写真にタイトルとストーリーをつけて、まとめました。



自分がつくった作品の発表会をしました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行った取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

思い出いっぱい わたしたちのみち

No. 09

通学路などで思い出に残る風景を写真に撮り、それをみちのように並べて「わたしたちのみち」の絵図をつくり、思い出を書き添える。



対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校5年生～中学校3年生

【関連する教科】

- 図画工作・美術
- 国語

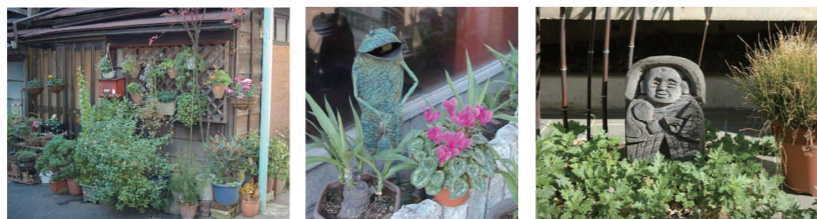
思い出いっぱいわたしたちのみち

1. 学習のねらい

- 私たちはまちを歩く時、まちの風景を見ながらいろいろなことを感じて歩いている。通学で毎日通ったみちではさまざまな出来事があり、まちの風景を見ると、その時のことを思い出することができる。
- この単元では、風景と心のつながりに気づき、さまざまな思い出とともに、心に豊かさをもたらしてくれる風景を大切にしていこうという気持ちを育てる。
- 小学校6年生や中学校3年生で実施する場合、卒業記念アルバムとしてまとめ、自分自身を振り返る機会とすることもできる。

2. 学習活動

- 自分たちの通学路(あるいは毎日通ったみち)で思い出に残ることを出し合い、みちが思い出の舞台になっていたことに気づく。
- 思い出の風景を写真に撮り、自分自身の毎日を振り返る。
- アルバムにまとめる作業を通して、その時の自分の気持ちをわかりやすく記録する方法を考え、表現する。



みちそのものだけでなく、みちばたの植木や置物なども、みちでの思い出と深くつながっているだろう。

3. 準備するもの

【用具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 写真を貼るための台紙
(アルバムのページのような厚紙)
- 思い出のコメント用の紙

【場所】

- 地域(通学路)、教室

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

	学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【1時間】	思い出を出し合おう	● 通学で毎日通っているみちで思い出に残ることはどんなことがあったか、好きな場所はどこか、出し合う。	● 学校のまわりで、子どもたちが好きな場所、道草しやすい場所があれば、撮影し例示する。 *思い出の例：道草したこと、好きな風景、猫がいた、きれいな花が咲いていたなど。	活動への関心・意欲 (発言・観察)
STEP 2 【2時間】	思い出を写そう	● 思い出に残る場所を探しながら、撮影する。	● 地域ごとのグループで活動。 ● 事前に保護者に付き添いをお願いし、各グループに大人をつける。	課題追求能力 (写真) 表現力 (写真)
STEP 3 【2時間】	思い出にストーリーをつけよう	● 写真それぞれに思い出のタイトル、ストーリーを書き添える。	● ストーリーはその時の様子を表すとともに、どう感じたかをことばで書くと、思い出が鮮明になることを伝える。 *わくわくする、ほっとする、きれいだな、楽しかったな、など。	コミュニケーション能力 (作品)
STEP 4 【1時間】	アルバム絵図をつくろう	● ストーリーをつけた写真を絵図に並べて貼り、思い出のアルバム絵図をつくる。	● イラストなどで写真を補足してもよい。 ● 作品はお互いに発表しあったり、展示会に出品するなど発表の場を提供する。	表現力 (作品・発言)

5. 留意点

- 心に残る思い出を支えてくれている素敵な風景を大切にしたいという気持ちにつながるようにする。
- それぞれの思い出を尊重しあい、自由に発想できる雰囲気をつくる。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。

6. 発展へのヒント

- 「No.10：校歌の風景を見つめてみよう」、あるいは「No.11：地域景観プランナーになろう」を行う。
- 班ごとに地図と探検クイズをつくり、他班のクイズに答え合う。
- 自分の好きな場所やテーマを紹介するツアーマップをつくる。
- 祖父母・両親が子どもの頃のまちの様子の写真との比較を行う。
- 祖父母・両親が子どもの頃のまちの様子や遊び場等を調べ、今のまちと比べた三世代マップをつくる。



大きな岩だね～!!

まちあるきのコースごとに、地域探検の目的や方法を話し合いました。

どうやってまとめよう? 新聞かな、クイズかな?



保護者や市役所の方も招いて、作品の発表会を開きました。



地域の良さや美しさが伝わるように、表現を工夫してまとめました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行なった取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

校歌の風景を見つめてみよう

No. 10

校歌に詠まれている場所を探し、観察し、地図に表現するとともに、その場所をよりよくする方法を考える。



小	山
川	は
の	そ
な	び
鳥	が
の	れ
声	ち

対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校5年生～中学校3年生

【関連する教科】

- 社会
- 図画工作・美術

校歌の風景を見つめてみよう

1. 学習のねらい

- 校歌に描かれている情景を知ることを通して地域のよい景観を発見し、地域への愛着心を育て、まちの環境を大切にしていこうとする。
- 地域の地理的位置、街並みなどの様子を調べ、地域の特色を考える。
- 地域を観察し、素材のよさや美しさなどに関心を持つとともに、それらに対する感覚などを高める。
- 造形的な表現力を働かせるとともに、自らつくり出す喜びを味わい、さまざまな表し方、見方に触れ、創造的に表現する。

2. 学習活動

- 校歌に描かれている情景や、イメージのできる場所を探す。坂の名前などの地名を題材とすることもできる。
- その情景の場所に行き、スケッチ、写真撮影などで記録する。
- そこで感じたことを各自の得意な方法で自由にまとめる(絵、工作、詩など)。
- 地域の高齢者に、昔の風景についてインタビューを行い、現在の風景との違いや、風景の変遷を考える。
- みんなで発表することにより、地域の宝として共有化するとともに、現在の様子と比べ、一歩進んで、こんなまちだったらいいな、ということを考える。

3. 準備するもの

【用具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 校歌
- 地域図(現地取材用の持ち運びやすいものと発表用の大きなもの(1/2,500の白地図や、住宅地図を拡大し貼り合わせたものなど))

【場所】

- 地域、教室

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【2時間】 校歌を通して地域に関心を持ち活動を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の活動(校歌から地域を知る)を知る。 ●グループ分け及び役割分担。 ●校歌に描かれている場所を探して地図に書き入れる。 ●どういう順序で見て回るかを話し合い、計画を立てる。 ●事前にわかること、知っていることをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●わかりやすい地域図をあらかじめ作成し、配布する。 ●場所の特定が困難であることが考えられるため、地図に書き入れる作業の助言を行う。 ●現地を回るルートは教師が最終決定を行う。 ●事前に取材用のワークシートを作成し、配布する。 	活動の意欲(観察)
STEP 2 【2時間】 情報収集や取材活動に主体的に取り組み、地域の特色について考える	<ul style="list-style-type: none"> ●現地取材を行う。 ●写真撮影、スケッチやメモの作成等を行い、見たことや思ったことを記録する。 ●現地でインタビューなどを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●取材に必要な用具を準備する。 ●各班に大人が付き添えるよう手配する。 ●その場所の良さや美しさをたくさん書き出すよう促す。 ●取材用ワークシートに、現地取材メモを記入するよう促す。 ●昔の景観を知っている高齢者から話が聞けるようにしておく。 	課題追求能力(観察) コミュニケーション能力(観察)
STEP 3 【2時間】 自分たちの地域について感じたことを、表現力を働かせて創造的にまとめることができる	<ul style="list-style-type: none"> ●写真を地図に貼りつける。 ●現地で感じたことを思い出しながら、現地で書いたメモ等を再整理する。 ●地図に意見を書き込む。 ●発見した「私たちのまちの良さ」をグループごとに発表する。 ●学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前回までに行ったことを簡潔に伝え、現地で感じたことをより多く思い出せるようにする。 ●その場所の魅力を知らない人々(保護者、異学年、他地域の友達など)にも伝わるよう楽しめる分、わかりやすい表現を工夫させる。 ●地域の宝として情報を共有するとともに、地域の良い景観を大切にしていこうことの意義を確認する。 	表現力(発表・ポートフォリオ) 自己評価力(発表・ポートフォリオ)

5. 留意点

- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。

6. 発展へのヒント

- 未実施であれば「No.09:思い出いっぱいわたしたちのみち」を行う。あるいは「No.11:地域景観プランナーになろう」を行う。
- 地域の景観の歴史的な変化を見つけ出し、その理由を考える。
- 自分の好きな場所やテーマを紹介するツアーマップをつくる。あるいは、さまざまなテーマを取材して、地域発見新聞をつくり、発表する。
- 他都市からの修学旅行生に自分たちのまちを紹介したり、逆にまちの魅力を教わったりする。

植木をきれいにしているんだよ



作業中の地域の方にインタビューもできました。



図書館の本やインターネットで事前調査してから、まちに出て写真を撮ったりメモをとったりしました。



パソコンを使って、発表用の資料づくりをしました。

ここがいいところだよ!!



集めた資料や体験したことをもとに、パンフレットづくりや、おすすめポイントの企画を立てました。地域の魅力が伝わるように工夫しました。



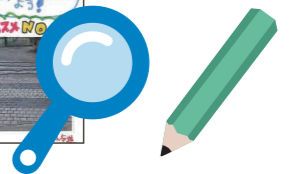
調べたことを紹介しあって、気づかなかったことを発見したり、共有したりすることができました。

ここでは、モデルプログラムをもとに行なった取り組みの様子を掲載しています。実際に取り組んだ学校の授業の様子や先生の声を事例集で紹介しています。併せてご覧ください。

地域景観 プランナーに なろう

No. 11

場所を決めて、その自然や人々の暮らしを調べ、その場所の魅力等を紹介するパンフレット等を作成する。



対象学年・関連教科

【対象学年のめやす】

総合的な学習の時間 ●小学校5年生～中学校3年生

【関連する教科】

- 社会
- 図画工作・美術

地域景観プランナーになろう

1. 学習のねらい

- 場所によって地域・自然・景観のよさが異なることに気づく。
- 自分の暮らす地域と、訪れた場所の地域・自然・景観との違いを知る。
- 自分のまち(地域)のよさについて、人によって考え方や見方に違いがあることを知る。
- 情報収集能力を身につけ、情報を効果的に伝えていく方法を工夫する。
- まちのよさを活かしていくために必要なことを話し合う。

2. 学習活動

- まち(地域)の地理的な特徴、どこにどのような種類の建物が建っているか、どこに農地があり何をいつくっているか、道路や鉄道がどこを通っているか、まち並みなどの様子などを調べ、まち(地域)の特色を考える。
- 郷土資料館を見学するなど、まち(地域)の発展のために昔の人が努力したことを知り、当時の人たちの工夫や苦労に気づく。昔の人の努力が、今のまち(地域)にも残っている場所を見つける。
- まちづくりプランナーに話を聞く。
- 学習の流れ：①事前に訪れるところのイメージをつくる、②訪れる場所の魅力、現地の人々の考えを探る、③訪れた自然・地域について整理し、魅力あるおすすめポイントを企画する、④おすすめポイントのパンフレットをつくる。

3. 準備するもの

【用具】

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム(各グループに1台)
- デジタルカメラを使用した場合はプリンタ
- 地域図
- 市販のガイドブック等

【場所】

- 教室、地域、他地域など

4. 学習の流れ(授業展開のイメージ)

	学習のねらい	学習活動	教師の指導	評価
STEP 1 【2時間】	情報収集などの活動を楽しみながら意欲的に取り組み、地域に関心をもつ	<ul style="list-style-type: none"> ●事前に訪問場所の情報収集を行う。 ●訪問場所で確認したいことなど、取材シートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●訪れる地域・自然・景観はどんなところか、そこで人々はどのように暮らしているのか、そこで何を体験したいのか、その理由は何かなどを考えるよう促す。 ●取材シートのひな形を用意する。 	活動の意欲(観察・ワークシート) 課題設定能力(観察・ワークシート)
STEP 2 【2時間】	活動を通して得た情報や知識を自分の課題に生かす	<ul style="list-style-type: none"> ●現地で、自然や人々の暮らしぶりなどを中心に調べ、体験する。 ●自分の感想を整理する。 ●地域に暮らす人々の誇りや悩みを調べる。 ●取材シートに調査内容を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の地域にはなくて、ここにあるものは何か(その逆)、調べたり体験したりする中で、おもしろい、つまらないと感じたことは何か、その理由は何かなど、些細なことでも興味を惹いたことはないかなどを考えるよう促す。 ●そこに暮らす人々・行政・観光案内所職員等は、その場所をどう考えているのか、そこを訪れた人(観光客など)は、なぜ訪れたのか、その場所をどう思ったのか、自分が感じる魅力を地元の人も感じているのか、地元の人々の思いを聞いてどう感じたか、など考える視点を与える。 	課題追求能力(観察・ワークシート) コミュニケーション能力(観察)
STEP 3 【2時間】	活動を通して得た情報や知識をもとにして、地域のよさを見出す	<ul style="list-style-type: none"> ●訪れた場所の魅力や問題点を話し合い、整理する。 ●今後、訪れる人々(学校の後輩や観光客等)のために、各自で回れる1日のおすすめポイントを企画し、発表する。 ●考えたコースや体験の中身を、今後の利用者の気持ちになって見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ポイントのねらい(訪れた人々に何を感じ、考え、知ってもらいたいかなど)、対象者(学校の後輩、一般の観光客、地元の人々等)、対象のニーズ(対象者が興味を持ってくれそうなものは何か、その場所の自然の魅力が満喫できる体験活動は何か等)、地域への貢献(この場所の問題解決に向けて、来訪者が支援できることはないかなど)、具体的なポイント、体験内容、時間配分など、ポイントの企画に関する示唆を与える。 	課題追求能力(観察・ポートフォリオ) 自己評価力(観察・ポートフォリオ)
STEP 4 【2時間】	感じたことや気づいたことを、わかりやすく効果的にまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ●設定したポイントの素晴らしい点、案内、ポイントガイドとしてのパンフレットやチラシ等を作成、紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●制作したものを評価する(見やすさ、言いたいことは伝わっているか、手に取ってみたいと思うかなど)。 	表現力(発表・パンフレット・チラシ)

5. 留意点

- 導入として、ダンボールでつくった額縁でまちの景色を切り取り(構図を決め)、写真に撮り、言葉を添えて発表する(展覧会をする)とよい。
- まち歩きの際の交通安全を確保する。特に、観察中や写真撮影中の児童は周囲への注意が疎かになりがちになるため、安全には十分配慮する。

6. 発展へのヒント

- 祖父母・両親が子どもの頃のまちの様子写真との比較を行う。
- 祖父母・両親が子どもの頃のまちの様子やどこで遊んだかなどを調べ、今のまちと比較して、三世代マップをつくる。
- 他都市からの修学旅行生との交流の機会を持ち、調べた成果を使って自分たちのまちを紹介したり、逆にまちの魅力を教わったりする。